

共創を軸としたマテリアリティ

当社は、小売事業の店舗をはじめ、お客様とふれあう場をたくさん持っています。そこでは、さまざまな人びとが集い、出会いが生まれています。このふれあう場を豊かなものとして保ち続けるために、人びとが根ざしている地域社会は大切な役割を担っています。そして、地域社会が常に活力にあふれた接点として、いつまでも続いていくためには、全てを支えているかけがえない地球環境が、滞りなく次世代に引き継がれていくことが重要だと考えています。

この考えをもとに、2018年にサステナビリティ方針『持続可能な社会と、くらしのあたらしい幸せの実現～人びとと共に、地域と共に、環境と共に～』を策定しました。

2018年から2023年にかけては、本方針のもと、サステナビリティ経営を推進する体制整備や方針策定などの基盤構築を進めるとともに、マテリアリティを特定し、環境・社会課題への取り組みを強化しました。また、CSV (Creating Shared Value: 共通価値の創造) 観点で、事業強化や新規事業の開発も進めてきました。

自社の事業活動のなかでできることから着実に取り組んできたなかでの気づきは、自社単独だけでは限界があるということでした。サステナビリティに関わる課題は、多くの人びとや企業に共通するテーマです。そのため、「競争」ではなく、ステークホルダーとともに価値を創り上げる「共創」によってこそ、解決の広がり和社会的インパクトを高めることができるとの認識に至りました。

そこで、2024年からスタートした現中期経営計画では、共創を軸としたマテリアリティへ見直しを行いました。マテリアリティへの取り組みを事業戦略と一体で推進し、従業員をはじめ、お客様、お取引先様、地域社会との連携を広げながら、3つの価値「感動共創」「地域共栄」「環境共生」を社会に提供していきます。

当社は、社会的価値と経済的価値の両立を図るサステナビリティ経営を推進し、新たな事業機会の創出、持続的な成長、企業価値の向上につなげていきます。



マテリアリティ	コミットメント(目指す姿)
くらしにワクワクをプラスする	価値観が多様化するなか、人びとの心を動かすモノやコト、これらとの新たな出会いの場や空間を提供し、生活者一人ひとりのWell-Beingと心豊かでワクワクする未来のくらしを提案する。
地域の活力を高める	当社の重点7エリアをはじめ各地域との結びつきを強化し、地域コミュニティ、行政、NPO等とともに、地域の活力を高め、持続可能な街づくりを行う。また、地域の魅力を発掘・発信することで、街に集う人びとにワクワクするあたらしい体験を提供する。
環境と共に生きる社会をつくる	2050年ネットゼロ目標達成に向けて、サプライチェーン全体の脱炭素化とサーキュラー・エコノミーの推進の両輪で取り組む。また、自社単独の取り組みにとどまらず、価値共創パートナーとともに、持続可能な社会づくりに誰もが貢献できる機会を提供し、働きかけを行う。
価値共創するパートナーを増やす	持続可能な社会の実現に向けて、サステナビリティに対する思いや考えを共有し、人権デューデリジェンスなどの社会的責任とともに、「感動共創」「地域共栄」「環境共生」の価値創出に向けたパートナー基盤をつくる。
多様な人財を輝かせる	ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンやワーク・ライフ・インテグレーションをはじめ従業員一人ひとりが活躍できる環境や仕組みを整え、意志・意欲や能力を最大限に引き出し、人財と企業の持続的な成長を実現する。

サステナビリティ経営

J.フロント リテイリンググループが目指すサステナビリティ経営

当社グループは300年、400年という歴史のなかで数々の危機に遭遇してきました。そうした状況に直面するたびに、「先義後利」「諸悪莫作 衆善奉行」という社是に立ち返り、お客様や社会の変化を機敏に捉えながら事業活動を愚直に実践してきたことが、今日の経営につながっているものと確信しています。社会との共存なくして企業の発展はありません。今経営には、一層の長期視点により、社会に存在意義を放つ将来のあるべき企業像を描くことが不可欠となっています。環境や社会、人

権などの課題から目を背けて企業活動を行うことができないのは明らかです。そうした解決に向けたサステナビリティの概念を企業戦略および事業戦略に組み込むことにより、将来の成長に向けた持続可能な経営の枠組みを獲得できるものと考えています。社是を基軸にサステナビリティを経営の中核に据え、事業活動を通じた社会課題の解決に取り組むことにより、社会価値と経済価値の両立を図っていきます。



マテリアリティと目標

マテリアリティ	アウトプット	指標		実績		目標	
				2024年	2025年	2026年	2030年
くらしに ワクワクを プラスする	●質の高い商品やサービス ●こころ躍るコンテンツ	グループ顧客会員数 (2023年度比)		15.7%増	32.5%増	25%増	※1
		顧客調査 (ワクワク・感動度)		基礎調査実施	70.5%	—	75%
地域の活力を 高める	●街の賑わい ●地域コミュニティの活性化	施設への入店客数 (2023年度比)		5.4%増	8.8%増	10%増	※1
		顧客調査 (地域への貢献度)		基礎調査実施	92.9%	—	80%
環境と共に 生きる社会を つくる	●温室効果ガス排出量削減 ●循環型ビジネス	温室効果ガス排出量削減 (2017年度比)	Scope1・2	▲65.4%	▲69.5%	▲70%	▲73%
			Scope3	▲23.2%	▲23.8%	—	▲40%
		事業活動で使用する電力に占める再エネ比率		67.2%	75.2%	72%	75%
		食品リサイクル率		88.3%	92.9%	80%	85%
		新規開発物件の環境認証取得率		対象物件なし	対象物件なし	—	100%
		顧客調査 (顧客の環境への取り組み度)		基礎調査実施	63.8%	—	55%
		価値共創する パートナーを 増やす	●業種・業態を超えた幅広い パートナーシップ ●持続可能なサプライチェーン	ステークホルダー共創件数		351件	371件
人権アセスメント結果				2023年度結果に伴う対話 (112社) Webセミナー実施 (63社参加)	取引先説明会実施 (233社/336名参加)	35% (B評価以上)	45% (B評価以上)
多様な人財を 輝かせる	●働きやすさと働きがい	従業員エンゲージメント	従業員満足度	68.9%	68.3%※2	70%	2026年度達成 状況を踏まえ 設定
			勤務推奨度	59.9%	62.0%	60%	
		女性管理職比率		26.2%	27.7%	31%	40%
		男女賃金格差	全労働者	66.5%	65.1%	差異縮小※3	2026年度達成 状況を踏まえ 設定
			正規雇用労働者	75.0%	74.0%		
			非正規雇用労働者	75.5%	69.2%		
		男性育児休職取得率		132.5%	95.5%	95%	

※1 マテリアリティの実現に向けて、事業戦略と、より関連を高められる指標・目標を検討します。
※2 2025年度より新サーベいの導入に伴い、従業員満足度は新サーベいの質問項目「満足度(仕事から得る達成感)」で測定
※3 2023年度男女賃金差異は次のとおりです。全労働者65.3%、正規雇用労働者74.4%、非正規雇用労働者72.7%

マテリアリティの見直し

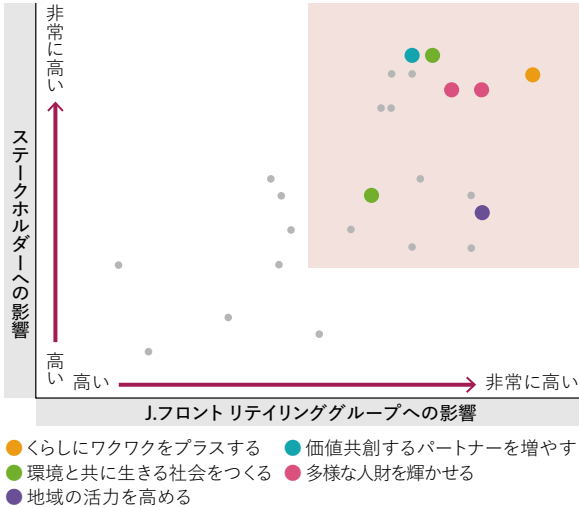
当社は、環境・社会課題と当社グループの事業活動の関連性を明確にするなかで、「企業と社会の持続的成長」および「持続可能な社会」の実現に資するテーマをマテリアリティ（重要課題）として特定し、2018年以降、中期経営計画策定のタイミングで見直すこととしています。 2024年度からスタート

当社を取り巻く経営環境変化

消費	●主要購買層の世代交代、グローバル化の進展（インバウンド需要など） ●こころを充足させる「共感・応援・信頼のつながり」への欲求の高まり ●生産・消費のサイクルから、「循環」意識へのさらなる高まり
市場	●国内人口減少、所得格差の進行 ●都市機能の更新や集約・まちづくりが進行 ●地域経済の担い手の減少、地域独自の伝統や文化への関心の強まり
社会	●気候変動など環境問題が深刻化、地政学リスクの顕在化 ●人や地域とのつながりが希薄化、デジタル上でのコミュニティが台頭 ●労働力不足の深刻化、仕事選びでも自己実現、社会貢献などをより重要視

した中期経営計画の策定においては、マテリアリティへの取り組みを課題解決にとどまらず企業成長に結びつけていくため、事業戦略と融合させ推進することを前提に、JFRグループ重要リスクや経営環境を取り巻く社会の変化などを踏まえて見直しを行い、5つのテーマを特定しました。

マテリアリティマップ



マテリアリティの変遷

2018-2020	2021-2023	2024-2026
サステナビリティ経営の土台づくり	サステナビリティと戦略の一体化への挑戦 ＝CSVの実現に向けた種蒔き	サステナビリティと事業戦略の融合 ＝CSVの実現
	お客様の健康・安全・安心なくらしの実現	くらしにワクワクをプラスする
低炭素社会への貢献	脱炭素社会の実現 サーキュラー・エコノミーの推進	環境と共に生きる社会をつくる
地域社会との共生	地域社会との共生	地域の活力を高める
サプライチェーン全体のマネジメント	サプライチェーン全体のマネジメント	価値共創するパートナーを増やす
ダイバーシティの推進	ダイバーシティ&インクルージョンの推進	多様な人財を輝かせる
ワーク・ライフ・バランスの実現	ワーク・ライフ・インテグレーションの実現	
5項目特定	2項目追加、3項目更新	5つのテーマに再整理
●ステークホルダーへのアンケート (4,250名) ●経営者インタビュー ●経営会議、取締役会で以下を論議 ▶JFRグループ重要リスク ▶マテリアリティマップ作成	●経営会議、取締役会で以下を論議 ▶環境課題を取り巻く外部環境の変化 ▶新型コロナウイルス感染症の影響による人びとの意識や社会の変化 ▶JFRグループ重要リスク ▶社会変化を踏まえた取り組みの高度化 ●ステークホルダーとのコミュニケーション	●2030年将来像実現に向けた再整理 (感動共創・地域共栄・環境共生) ●経営会議、取締役会で以下を論議 ▶JFRグループ重要リスク ▶サステナビリティと事業戦略の融合 ▶従業員のアクション促進に向けた表現 ●ステークホルダーとのコミュニケーション